

「地域協育ネット」にかかわっている人の声

地域ぐるみで子どもたちのより良い育ちを願って

秋穂地域協育ネット協議会会長 原田 洋子

秋穂地域協育ネット協議会は、子どもたちの生活リズム向上を目標とする地域の自主的活動団体「すこやか秋穂っ子プロジェクト」が中心となり、「キラリ輝く秋穂っ子の育成」をスローガンに掲げ、学習支援活動、環境整備活動の実施や、講演会、研修会の開催など、様々な取組を進めています。

今後、地域と学校とがより一層の連携強化を図るとともに、地域全体に「地域協育ネット」の趣旨や取組についての広報活動を進め、更に多くの地域の人々の協力を得ながら「地域協育ネット」を推進し、子どもたちのより良い育ちにつなげていきたいと思っています。



コミュニケーションの軸になり、笑顔あふれる豊かな地域に

ふるさと協育ネット「ほっちゃんや」コーディネーター 馬場 加奈子

長府地区の地域協育ネット事業に携わって6年が経過しましたが、一貫して強く感じることは子どもたちに対する「学校」の大きな思い、「家庭」の熱い思い、そして「地域」の温かい思いの大切さであり、素晴らしさです。コーディネーターの一番大切な役割は、学校・家庭・地域のそれぞれの思いを相互に的確に伝えて支援活動につなげ、皆さんが支援活動を実施して良かったと実感していただけるようにコミュニケーションの軸になることだと思っています。今後も、子どもを核として学校・家庭・地域が連携し、たくさんの笑顔に包まれる豊かな地域になるように、この活動を充実させていこうと思っています。



楽しみながら学校と地域のコミュニケーションづくりを

すみよし地域協育ネット コーディネーター 戸倉 ひとみ

私が学校支援コーディネーターとして活動を始めたのは6年前。始めは、学校と地域とのつながりを、どのように築いていけばよいのか、試行錯誤の連続でした。しかし、行政の方や先生方と知恵を出し合い、環境整備や学習支援など、成果が少しずつ表われてきました。現在、地域の方々がボランティアとして参加され、協力しながら楽しく活動しています。学校という空間が「笑顔があふれ、会話の弾む憩いの場」となれば、学校をもっと身近に感じることができると思います。何事も楽しんで取り組むことが長く続けていく秘けつだと思っていますので、私自身が無理せず、楽しみながら学校や地域とのコミュニケーションづくりにかかわっていききたいと思っています。



若い保護者の方に、たくさんの良い出会いを

和木町母子保健推進協議会 副会長 中儀 和子

現在、和木町母子保健推進協議会員として乳幼児の子育て支援にもかかわらせていただき、地域の方と一緒に楽しく子育てができる場の提供に努めています。

「和木町地域協育ネット」では、子育て支援の行事として、「すくすくフェスタ in わき」を子育て支援団体と連携して開催しています。親子で一緒に遊べるこの行事は、乳幼児期の子どもをもつ保護者が地域の行事に参加する機会となるとともに、子育て支援の関係者にとっても、子育て世代の人々と交流ができるよい機会となっています。これからも若い保護者の方に、たくさんの良い出会いがあることを願っています。



地域が子どもを育て、育った子どもが地域を創る好循環の構築

長門市油谷中央公民館 館長 森田 和康

油谷地域の高齢化率は44.2%になっています。そうしたまちで、子どもを地域の真ん中に置いて、高齢者をつなぎ、結び、活かし活かし合うWin-Winの関係を創る。こうした実践は学校を含む地域全体を活性化していく。また、地域に愛され育った子どもたちは、今度は地域を創る側に回って行く。そうした「知」の“好循環”を地域に構築する「ネットワーク型公民館運営」で取り組む油谷地域協育ネットに「公民館の機能を問い直す」意味からも期待が集まっています。



学校・家庭・地域の連携を深め、地域に誇りをもてる子を育てる

下関市立生野小学校 校長 中本 稔

「地域と学校の距離が近くなった気がします」これは、地域との熟議に参加した教員の感想です。山の田中学校区では子どもたちの育ちや学びを地域ぐるみで支援する共同組織体を「にじいろネット」と名付け、3校が連携した学校運営協議会をその中核として活動を開始しました。活動が軌道に乗るのはこれからですが、教員の意識も、地域の学校に対する見方も少しずつ変わってきたように感じています。学校・家庭・地域が同じ方向を向いて子どもたちに接すれば、子どもたちは必ずまっすぐに成長します。三者の連携を深めることにより、自分たちが生まれ育った地域に誇りがもてる子どもを育てていきます。



「あさなえネット」の成長とともに、学校や地域がますます元気に

光市立浅江中学校 校内コーディネーター(教諭) 東原 孝

「あさなえネット」は5年目を迎え、地域との絆を更に深めています。学校と地域の融合された熱い思いが様々な活動に込められ、その思いを感じながら生徒たちは安心感とやる気をもって生き生きと活動しています。「あさなえネット」の成長とともに、学校や地域がますます元気になっていくのを肌で感じる事ができ、地域の宝である「浅江っ子」が将来まちづくりに参画する基盤をつくることをテーマに、小中連携の活性化や活動の更なる充実に向け、地域と保護者、全教職員が高い意識をもって取り組んでいます。



「地域協育ネット」の仕組みの中で、組織的・継続的に食育を推進

下松市立末武中学校 栄養教諭 岡田 典子

子どもたちの生きる力を育むために「食」が重要であり、第2次やまぐち食育推進計画では、基本理念として「食で育む ひとづくり 地域づくり」が掲げられています。「地域協育ネット」の取組の中には食に関連するさまざまな実践もあり、食育推進に大変有意義であると思います。栄養教諭には、食に関する指導のコーディネーターの役割があり、今後は、子どもたちが望ましい食習慣を身に付けたり、地域の食文化を継承したりすることができるように、「地域協育ネット」の仕組みの中で、組織的・継続的に食育を推進していきたいと思っています。



学校事務職員として、コーディネーターとして

山口市立佐山小学校 主任主事 春日原 彰子

私もコーディネーターの役割を果たすことができないだろうかと考え、「『地域協育ネット』コーディネーター養成講座」に参加しました。充実した内容の講義や演習を受け、スキルの向上が図れたことはもちろんですが、毎回、実際に地域で子どもたちとかかわっている方々と交流することで、学校や子どもたちに対する思いが聞け、自分自身の考え方や視野を広げることができました。今後も、学校・家庭・地域が連携して地域全体で子どもたちを育むことができる仕組みづくりに、学校事務職員としてしっかりとかかわっていきたくと思っています。

